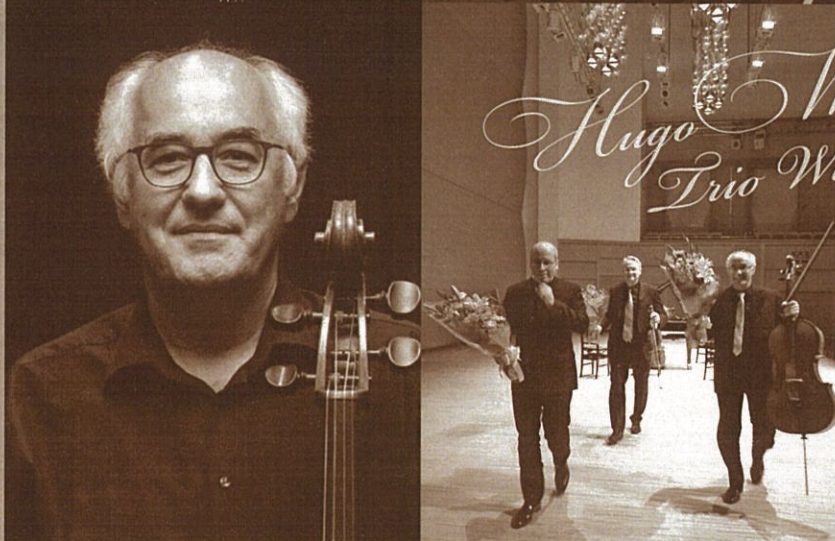


ウィーン・ブーゴ ヴォルフ三重奏団

オリヴァー・トレンドウル(ピアノ)



タニエル・ゲータ(ヴァイオリン)
前ウィーンフィル・モーツァルト管弦楽団コンサートマスター
前読売日本交響楽団コンサートマスター
ベルリン・ハロック・ソリスト管弦楽団監督



グスタフ・リヴィンス(チェロ)
1990年チャイコフスキー国際コンクール優勝者
チャイコフスキー国際コンクールチェロ部門審査員



【主催】ウィーンフィルメンバーによる室内楽を楽しむ会
【共催】大館市教育委員会
一般財団法人大館市文教振興事業団



プログラム

- ベートーヴェン ピアノ三重奏曲 第1番 変ホ長調 作品1-1
—— 休憩 ——
- クララ・シューマン ピアノとヴァイオリンのための
3つのロマンスより 作品22-3
- ペトルス・ヴァクスス ピアノ作品より「White Scenery」(白の風景)
- ガスパル・カサド レキエブロス(親愛なる言葉)(チェロ、ピアノ)
- フーゴ・ヴォルフ 歌曲作品より「イタリア風セレナーデ」(ピアノ三重奏)
タンゴメドレー(編曲:高橋幸代)
- シュトラウスII世 美しき青きドナウ

※演奏者の希望により曲目を変更する場合がございます。

2024年10月9日(水) 開場 18:00
開演 18:30

ほくしか鹿鳴ホール 大ホール
(大館市民文化会館)

《全席自由席》一般 3,500円(税込)

※一般当日券 4,000円 ※大学生以下無料(学生証提示)

《プレイガイド》ほくしか鹿鳴ホール/いとく大館ショッピングセンター/楽器の店コンチェルト
ファッションギャラリーきらら/ゆうフォート/文化の杜交流館コモッセ
北秋田市文化会館(ファルコン)/北秋協販/日活書店

☎ ほくしか鹿鳴ホール (大館市民文化会館)
0186-49-7066

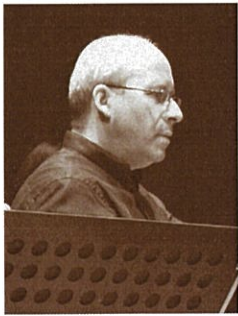
ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団

Hugo Wolf Trio Wien

ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団は2007年1月にウィーン・フィルの前コンサートマスター、ダニエル・ゲーデにより結成されたピアノ三重奏団。

2012年にチェロ奏者として巨匠グスタフ・リヴィニウス(1990年チャイコフスキー国際コンクール優勝者・現審査員)が参加し、超絶的な演奏を披露した。2016年の日本ツアーではピアニストに欧米でソリストとして活躍している名手オリヴァー・トレンドウルを迎え、その巨匠性に満ちたピアニズムと稠密なアンサンブルは日本の聴衆に鮮烈な感動を与えることとなり、2019年の再来日では北海道から九州までの29都市で50回をこす演奏会に出演し、忘れることのできない圧倒的な名演を繰り広げた。

2024年、満を持して来日公演に臨むウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団の最高の演奏にご期待下さい。



■オリヴァー・トレンドウル (ピアノ) *Oliver Trindl*

1970年に南ドイツのマーラーズドルフで生まれる。ゲアハルト・オッピッツやオレグ・マイセンベルク等の薫陶を受け、幼少時より国内外のコンクールで多くの受賞歴を数える。トレンドウルはソリストとして古典及びロマン派から現代曲まで網羅した幅広いレパートリーを持ち、欧米を中心に数多くのリサイタルを行うと同時に、ミュンヘン交響楽団、バンベルク交響楽団、北ドイツ放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ザールブリュッケン放送交響楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ローザンヌ室内管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、ポーランド室内管弦楽団、チェコ国立管弦楽団、上海交響楽団などの著名オーケストラと共演し成功をおさめ、その足跡はさらに南北アメリカ、南アフリカ、ロシア、中国、日本等にまで及んでいる。トレンドウルは録音にも意欲的ですでに70枚以上のCDをリリースしている。



■ダニエル・ゲーデ (ヴァイオリン) *Prof. Daniel Gaede*

前ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター
前読売日本交響楽団コンサートマスター
ベルリン・バロック・ゾリステン音楽監督

1966年にドイツ、ハンブルクに生まれる。6才よりヴァイオリンを始め83年ドイツ国内コンクール1等賞及びロンドンにおけるカール・フレッシュ国際コンクール優勝。1986年にはクラウディオ・アバドの主宰するEUユーロスオーケストラ、コンサートマスターに就任し、世界的な演奏活動を展開し1992年にはカーネギーホールにデビューした。ソリストとしてロイヤル・アルバート・ホール、バービカン・ホール、ウィーン楽友会館ホールで演奏、ウィーン・フィルやフィルハーモニア管弦楽団をはじめとする著名オーケストラと共演する。1991年より94年までベルリン芸術大学で教鞭をとり2000年以降はニュルンベルク音楽大学ヴァイオリン科主任教授の重責を担っている。1994年から2000年までウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団でコンサートマスターを務めた。2013年から3年間読売交響楽団コンサートマスターの要職に在り、またベルリン・フィルの首席奏者で構成されたベルリン・バロック・ゾリステンの音楽監督を務めた。欧米やアジア諸国で演奏会出演も数多く、毎年、霧島国際音楽祭、軽井沢音楽祭等に招かれ、ソリストや室内楽奏者として多彩なコンサート活動の傍ら積極的に後進の指導にあたっている。また2011年秋より東日本大震災被災地応援ツアーを開始し、東北の被災地を毎年訪問して既に100回以上のボランティア演奏会を行っている。



■グスタフ・リヴィニウス (チェロ) *Prof. Gustav Rivinius*

1990年チャイコフスキー国際コンクール優勝者
チャイコフスキー国際コンクール・チェロ部門審査員

グスタフ・リヴィニウスは1990年にモスクワで開催されたチャイコフスキー国際コンクールのチェロ部門の優勝者で、同時に解釈賞も受賞した。そして現在に至るまでドイツ唯一のチャイコフスキー国際コンクール優勝者であり、すでにチェロ独奏者としての地位を世界的に確立し、バイエルン放送交響楽団、ライブツッヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団等の著名オーケストラや、ロリン・マゼール、ヴァレリー・ゲルギエフ、クリストフ・エッシェンバッハ、ヴァツラフ・ノイマン、ホルスト・シュタイン等の数々の巨匠たち及び有名な音楽家たちとの共演を続けている。リヴィニウス家は音楽一家としても有名で、兄弟でリヴィニウス・ピアノ四重奏団を結成し長年にわたり演奏活動をしている。またダ・サロ・トリオ(弦楽トリオ)、バルトルディ弦楽四重奏団に所属し、室内楽奏者としても活発に活躍している。グスタフ・リヴィニウスはHFMザールブリュッケン音楽大学教授であり同時にSchleswig-Holstein音楽祭のマスタークラスを受け持っている。これまでに多くの国際コンクールの審査員を務めてきたが、2011年よりチャイコフスキー国際コンクールの審査員に選出された。日本には2012年、2016年、2019年にウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団と共に来日し、その圧倒的な超絶技巧に寄り聴衆の絶賛を浴びた。また2015年2月には東日本大震災被災地応援ツアーのためマクシミリアン・フリーダーと東北の被災地をボランティアとして訪問し12回のコンサートで演奏した。昨年2022年のウィーン・ピアノ五重奏団日本ツアーでは全日程に参加し、圧倒的な名演を繰り広げた。